

平成29年9月

國石洋 学位論文審査要旨

主査 兼子 幸一
副主査 渡邊 達生
同 畠 義郎

主論文

Chronic inactivation of the orbitofrontal cortex increases anxiety-like behavior and impulsive aggression, but decreases depression-like behavior in rats

(ラットにおいて眼窩前頭皮質の慢性不活性化は不安様行動と衝動的攻撃性を増加させるが、うつ様行動を減少させる)

(著者：國石洋、一坂吏志、松田紗衣、太等恵里、原田里穂、畠義郎)

平成29年 Frontiers in Behavioral Neuroscience DOI:10.3389/fnbeh.2016.00250

参考論文

1. Early deprivation increases high-leaning behavior, a novel anxiety-like behavior, in the open field test in rats

(ラットにおいて早期剥奪はオープンフィールド試験における新たな不安様行動である高位置への寄りかかり行動を増加させる)

(著者：國石洋、一坂吏志、山本未希、井久保樹子、松田紗衣、太等恵里、原田里穂、石原康平、畠義郎)

平成29年 Neuroscience Research DOI:10.1016/j.neures.2017.04.012

審 査 結 果 の 要 旨

本研究では、眼窩前頭皮質（OFC）が情動行動に果たす役割を調べるため、ラットOFCの神経活動を局所的・慢性的に抑制し、行動変化を観察した。その結果、不安様行動と衝動的攻撃性の増加、うつ様行動の減少が見られた。これらの結果は、先行研究で示唆されていた不安、衝動性の制御に対するOFC機能の重要性を検証したことに加え、OFC活動の異常が抑うつを引き起こす可能性を示唆しており、神経科学の分野において明らかに学術水準を高めたものと認める。